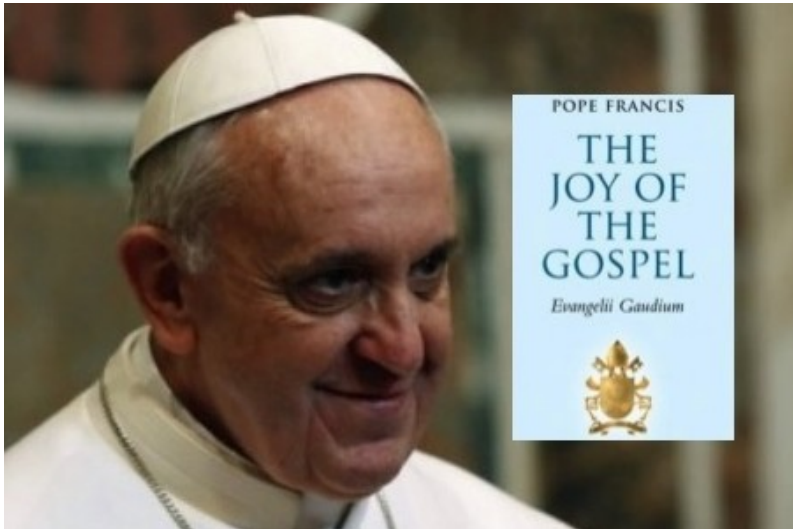
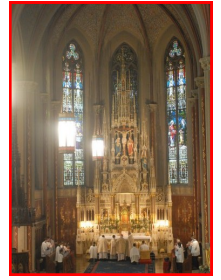




神と共にいる喜び

2014年 5月



神の民よ、喜び。今日のミサの入祭唱でこう歌われ、典礼は喜びで満ちあふれています。

この喜びとは何なのでしょう。

聖トマスは言います。「歡喜や喜び、うれ

しさ、また楽しさとは、感覺的な状態を表わす感情の一つで、自分にとってふさわしいもの、好ましいものが自分のものになったと気づいたときの感情である。」

喜びとはありのままの自分にふさわしいもの、満足するものが得られたときに感じるものであり、また良いものを得たという事実気づくことでもあり、総じてそれは良いことなのです。

「神の民よ、喜び。」

今日の典礼で私たちは喜ぶように招かれています。イエスは靈的な価値を単なる物質的成功よりはるかに重んじられましたが、人が生きる上で物質的に必要なものを忘れたり、軽んじられたりされたわけではありません。

福音書では、説教を聴くために従ってきた大勢の群衆に取り囲まれているイエスの姿が描かれています。イエスは人々が空腹なのであろうと思われ、食べさせるためにあのすばらしいしるしの一つを行うこととなります。イエスの祝福で、五つのパンと魚二匹は五千人のお腹を満たし、まだなお十二のかごはパンでいっぱいでした。

このしるしを実行される前に、イエスはフィリポにこう尋ねられます。「この人たちに食べさせるには、どこでパンを買えばよいだろうか。」聖ヨハネは「こう言ったのはフィリポを試みるためであって、御自分では何をしようとしているか知っておられたのである」と述べています。私たちの人生において、神が解決法をご存じないような困難なことは決して存在しないのです。

神は、私たちが困難に直面したときにどれほどの強さを持っているか測ることを望まれています。そうすることで弱点や力量不足に気づくことができるのです。そのうえで、神への信仰と信頼を私たちが実行することを神は望まれているのです。私たちから主を見捨てることがなければ、主が私たちを捨て去ることは決してありません。私たちが神から離れようとするその瞬間、神はご自分の身を隠してしまわれ、ご自身の行動を黒い幕で覆われるのです。今はただ信じ、それも堅く信じて、謙虚に忍耐強く確固たる信念を持って待つ時なのです。聖霊が一人の魂を強くしてくれる範囲内で、人は高まる希望をあふれさせ、正義、美徳、神聖さを、飢えや渇きと叫ばれるまでに渴望することになるのです。



特に不屈の精神を与えられることで、魂は義を求めて飢えと渴きを覚えるのです。ここで言う義とは、広い意味で扱われ、完全性や聖性そして神と他の多くの魂に自己を捧げることも意味します。

こういうことで聖霊は、魂にもっと広い領域を示しながら、さらに完全な働きへと導き、より寛大に徹底して自己を捧げるよう招いているのです。

聖パウロは言います。「キリストの慈愛は私たちを包み込みます。イエスはご自身が追い求められている御父のご意志への燃えるような渴きでご自身を使い果たされました。イエスには魂への燃えるような渴きがあり、絶えずご自身を捧げておられるのです。それでもなお、イエスは父である神の栄光を渴望されているのです。」

勇気と熱意とは、私たちがイエスと一体になることで得た力から来るものあり、イエスを信じ、イエスの持つ靈力に従順になることで、その勇気や熱意が湧いてくることを心にとどめておきましょう。

空腹の人がパンで飢えを満たして喜ぶように、義と神聖な賜物を与えられて生きる魂も同様です。飢えを満たすことのできる唯一の食物である神のご意志に、身を深く侵すことは幸いであり、神と他の多くの魂のために自身をいけにえとして捧げることで渴きを和らげることができれば、それは喜びとなります。そして、ご聖体として神を受けることで、また深い祈りを捧げて神に身を侵すことで神への飢えがいやされれば、魂は喜ぶのです。

この喜びを味わうことができないとき、それは義を十分渴望していないということです。

私たちが心に抱くこの聖なる空腹のほかに、この世のものへの執着や、この世のものやこの世の楽しみへの飢えがあれば、人が満足するものを追い求める方へと道はずし、神の義への渴望を弱めることとなります。このことは私たちに何を与えてくれるのでしょうか。私たちの飢えは決して満たされることはなく、私たちは常に満たされない状態に置かれるのです。

ですから、私たちのこの世のものへの空しい飢えのすべてを消してもらえよう、そして聖なるものへの飢えを増してもらえよう、イエスにお願いしようではありませんか。それでも私たちの飢えは弱々しく、それに一貫性がありません。しかし聖霊は、忍耐強さを私たちに与えることで、私たちの聖なるものへの飢えをより力強く粘り強いものにすることを望み、義と神聖さを備えた神のご意志に沿った、滅びることのない善いもので私たちが満たしてくれるのです。

私たちの中のこの飢えを目覚めさせる力を持っておられるイエスは、その飢えを余りあるほどに満たす力も持っておられ、この豊かさによってのみ私たちは永遠に祝福されるのです。

福音書にこうあります。「弟子の一人がイエスに言った。『ここに大麦のパン五つと魚二匹とを持っている少年がいます。けれども、こんなに大勢の人では、何の役にも立たないでしょう。』」しかしイエスはその何の役にも立てそうにないものを求められ、それを使って大きなしるしを成し遂げられたのです。何事も可能で、無からの創造も可能な全能の神が私たちのことを扱われるとき、神は私たちの協力なしには事を成されません。人のできることはほんの小さな事です。

しかし神が私たちに関わられるときの一つの条件として、その小さな事を望まれ、要求されるのです。少年が持っていた少しの食べ物を大量に増やされたように、主のみが私たちを聖なる者とすることができるのです。そして主は、私たちの助けを求められています。福音書の中の少年のように私たちも、持っている力のすべてを主に捧げなければなりません。私たちは毎日、誠実に心をつくして私たちの決意を新しくし、それを主に捧げなければなりません。そうすれば、主は私たちに大きなしるしを、それも私たちを聖なる者としてくださるしるしをもたらせてくださることでしょう。



ラファエル植田勝行神父の米国での住所

St. Francis de Sales Oratory

2653 Ohio Avenue

Saint Louis, Missouri 63118

王たる宣教会のホームページ<<http://icrsp-jp.org>>

Email: sfds@institute-christ-king.org